

UPS 用ネットワークマネジメントカードのご使用にあたって

この度は、弊社の高機能無停電電源装置をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品をご使用いただく前に以下の注意事項をお守りいただき、取扱説明書に沿って正しく
ご使用くださるようお願いいたします。

2017年3月
富士通株式会社

1 対象機種

富士通から提供している以下のUPSでご使用ください。

Smart UPS RT 5000 (富士通型名: PY-UPAC5K、PY-UPAC5K2)

Smart UPS RT 10000 (富士通型名: PY-UPAR0K、PY-UPAR0K2)

—注意—

上記の機種にはネットワークマネジメントカードが標準搭載されています。

上記以外の機種でのご使用につきましては、富士通では保証いたしかねます。

2 本製品のご使用まえに

本製品をご使用される前に、IP アドレス等の設定を行う必要があります。設定方法の詳細については、本製品の取扱説明書を参照してください。

本製品をご使用される前に、以下のように時計の時刻設定と設定の保存を行うことを推奨します。

1) 本製品のログ機能を正しく動作させるために、以下の手順で時計の設定を行ってください。

時計の設定を行わない場合には、ログに記録される日付、時刻が正しくなりません。

手順1. 本製品にアクセスし、ユーザ名、パスワードを入れてログオンします。

手順2. 「Administration」タブをクリックし、[General] ボタンをクリックします。

手順3. 画面左側の [Mode] をクリックすると、時計設定の画面が表示されます。

手順4. 「Apply local computer time」のチェックボックスにチェックし、[Apply] ボタンをクリックするとサーバの時刻が本製品に設定されます。

2) ネットワークマネジメントカードの設定情報を、以下の手順で待避してください。

手順1. 本製品の必要な設定を全て実施した後に、サーバからFTPでアクセスします。

手順2. FTPプロトコルで本製品にアクセスし、ユーザ名、パスワードを入力します。

手順3. Get config.ini コマンドを実行します。

手順4. FTPでアクセスしたサーバの対応するフォルダに、config.ini ファイルが格納されます。

手順5. 必要に応じて、config.ini ファイルを保存しておきます。

config.ini ファイルをアップロードすることで、設定情報を復元することができます。

本製品のオプションである拡張バッテリー(富士通型名: PG-UPEB01、PY-BBUE2)が接続されている場合には、ご使用される前に、以下の例のようにネットワークマネジメントカードに拡張バッテリーの設定を行う必要があります。(ファーム版数 v5.1.7 の例)

- 手順1. 本製品にアクセスし、ユーザ名、パスワードを入れてログオンします。
- 手順2. 「UPS」タブをクリックし、[Configuration] ボタンをクリックします。
- 手順3. 画面左側の [general] をクリックすると、設定の画面が表示されます。
- 手順4. 「External Batteries」の入力部に”2”を入力し、[Apply] ボタンをクリックすると拡張バッテリーの接続が設定されます。

3 管理ソフトウェアとの連携

サーバに、PowerChute Network Shutdown をインストールし、本製品と連携するよう構成することにより、停電時のOS自動シャットダウンおよびスケジュール運転を行うことができます。

電源障害(停電)発生時のシャットダウンシーケンスは下記のようにになります。UPSの動作は、本製品を含めたハードウェアの動作となります。

詳細については、UPS本体取説のPowerChute Network Shutdown (別売) の記載を参照してください。

4 ネットワークマネジメントカードの留意事項

本製品をご使用される前に、以下のネットワークマネジメントカードの留意事項をご確認ください。

- 1) 本製品を UPS に装着する際は、必ず UPS の電源を落とし完全停止状態にしてください。UPS の動作中に本製品を装着すると、アプリケーションソフトの設定によりネットワーク上のグループに「UPS との通信が切断されました。」というポップアップメッセージが送信されます。
- 2) 本製品に IP アドレスを割り振る場合は、固定 IP を使用されることを推奨します。
- 3) 本製品と UPS 本体の USB ポート/シリアル通信ポートとの併用はできません。
- 4) 本製品の Simple Signal Shutdown 機能で UPS を Turn Off することはできません。
- 5) スケジュールできる最大設定可能時間は 336 時間 (14 日間) です。
- 6) Web インターフェース画面上で表示される”Access Link”機能はサポートしておりません。
- 7) 本製品のリセットボタンを連続して多数回押されますと、Web インターフェース画面が表示されなくなることがあります。その場合は、一度”UPS の完全停止”を行った後、UPS を再起動してください。(”UPS の完全停止”については、UPS の取扱説明書をご参照ください。)
- 8) FTP で本製品にアクセスして無操作の状態がしばらく続きますと、コンソール画面に「接続がリモート ホストによって閉じられました。」などのメッセージが表示されることがあります。その場合は、再度 FTP で接続し直してください。
- 9) 本製品を運用中に、Web インターフェースで基本設定を変更すると本製品がリブートされている間「Serial Communication Lost」等のメッセージが表示されることがありますが、この場合はしばらく時間をおいた後にページをリロードする、もしくは再度ログインすることで解消されます。なお、それでも解消されない場合は、本製品のリセットボタンを押下してください。
- 10) 本製品の SNMPv3 設定で、Authentication Passphrase および Privacy Passphrase に 同一文字のみを設定した場合、文字数を誤認識する場合があります。同一文字での設定は避けてください。
- 11) UPS 負荷電力が少ない場合、本製品での負荷電力と Load の表示が”0”となる場合があります。
- 12) Web インターフェースの Logs > Events > log ページにて、”Last 1 day”など、”Last”というオプションを使用した条件で表示内容を絞ると、現在から数時間前までのログが表示されない場合があります。
- 13) ランタイム較正 (Runtime Calibration) 完了後に Web インターフェースの UPS > Diagnostics ページに記録されるメッセージ、及びイベントログに記録される内容が UPS の機

種により異なる場合があります。

メッセージ例 1 : Passed

メッセージ例 2 : Passed via management device on January 1, 2012

14) UPS 名には以下の記号を使用しないでください。文字化けが発生する場合があります。

{ } | ~

15) スケジュールを登録するページで **Apply** ボタンを連打すると、**Scheduling** 一覧画面に戻るのではなく、複数の同じスケジュールが登録されてしまうため、**Apply** ボタンの押下の際は連打しないでください。

16) Web インターフェースの **UPS > Configuration > shutdown** ページの **On-Battery Shutdown Behavior** において、以下の 3 種類の選択を行うことができますが、『**Ignore PCNS shutdown commands**』はサポートされていませんので選択しないでください。

- Restart when power is restored
- Turn off and stay off
- Ignore PCNS shutdown commands

17) ネットワークマネジメントカードでスケジュール運転を実施した時に、UPS に設定されている **Power Off Delay** 等のパラメータと UPS のスリープ時間の影響により、実際のオン時刻が設定されたオン時刻より早くなります。シャットダウン時刻からオン時刻までの時間は、設定時に NMC により 6 分の倍数に調整されます。また、UPS の仕様によりスリープ時間は 6 分の倍数になります。そのため、**Power Off Delay** 時間の設定値によって、設定したオン時刻と比較し実際の UPS のオン時刻は約 1 分から 8 分早くなります。

18) 複数サーバを別々のコンセントグループに接続した場合に、コンセントグループに別々のスケジュールを設定しても、別々のスケジュールが有効にならず、正しく動作しません。複数サーバでの別スケジュール設定は行わないでください。NMC ファーム版数、v5.1.7 で発生。NMC ファーム版数を、v6.0.6 以降にすることにより回避されます。

19) 特に記載がない場合、入力フィールドに全角文字は使用しないでください。

20) Web インターフェースの **UPS > Configuration > sync control** ページに存在するオプション『**Return Runtime Duration Offset**』は、未サポートです。

21) Web インターフェースの **Logs > Data > Log** ページにおいて、[**Launch Log in New Window**] をクリックして、データログを別ウィンドウで表示すると、9 時間分のログが表示されない場合があります。

22) **SMT 1500RMJ** 及び **SMT 1500J** において、メインアウトレットグループを負荷制限機能を使用してオフになるように設定するためには、アウトレットグループ 1 がメインアウトレットより先に (或いは同時に)、オフになるように設定する必要があります。

23) UPS のスケジュールを設定する場合に、安全なシャットダウンが行われるようにするためには、[**PowerChute Network Shutdown クライアントに信号を送信**] にチェックを入れて設定してください。

24) 同期制御グループ (**Synchronized Control Group**) を設定している場合に、Web インターフェースの **UPS > Control > UPS** の各アクションの確認画面のメッセージが実際の動作と異なる場合があります。動作の詳細については、本製品の取扱説明書をご参照ください。

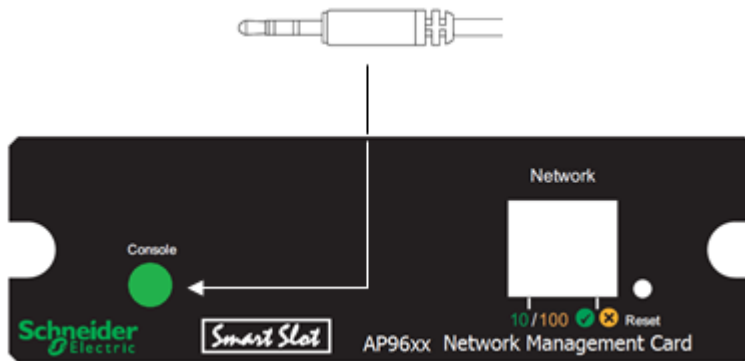
25) NMC のコンセントグループに対してスケジュールシャットダウンを設定した場合、サーバの起動後に OS がシャットダウンする場合があります。NMC ファーム版数、v5.1.7 で発生。コンセントグループではなく、UPS に対するスケジュール設定により回避されます。OS がシャットダウンする場合は、UPS または NMC の **Reboot** 処理を実行することにより回避されます。また、NMC ファーム版数を、v6.0.6 以降にすることにより回避されます。

26) NMC のスケジュールを複数設定し、時間帯が重なった設定を行った場合、起動後にサーバの OS がシャットダウンする場合があります。NMC ファーム版数、v5.1.7 で発生。重複しているスケジュールを無効にし、UPS または NMC の **Reboot** 処理を実行することにより回避されます。また、NMC ファーム版数を、v6.0.6 以降にすることにより回避されます。

27) Web インターフェースに初めてアクセスするときなどに、ログオン画面で文字の入力ができない場合があります。そのような場合には、ブラウザでページの再読み込みを行ってください。

28) 本製品の LAN 接続により UPS と通信する場合は、USB またはシリアル接続で通信することはできません。

- 29) 本製品の最新ファームウェアは、富士通のダウンロードサイトよりダウンロードし適用することができます。ファーム版数を v6.0.6 以降にアップした場合は、本製品の Web 画面イメージが v5.1.7 以前と異なります。
- 30) Windows およびネットワークマネジメントカードの IPv6 設定を無効にしている場合、Device IP Configuration ツールを使用したネットワークマネジメントカードの IP アドレスの設定等ができないことがあります。
この場合は IPv6 設定を有効にしてご使用ください。設定方法の詳細はネットワークマネジメントカードの取扱説明書をご参照ください。
- 31) NMC 使用時に NMC のシリアル通信ポート（コンソールポート）を使用しないでください。
※IP の設定等で使用する場合は、下図矢印のシールを外して、必ず同梱されている純正品シリアルケーブルを使用し、直接サーバと接続して使用してください。
※シリアル通信ポート（コンソールポート）にネジを挿入しないようご注意ください。



- 32) イベントログに[システム : ウォームスタート] が記録されることがありますが、これはネットワークマネジメントカードがネットワークトラフィックを受信しない状態が続いた場合に動作する内部ウォッチドッグ機構によるもので、ネットワークマネジメントカードの故障ではありません。
- 33) スケジュール運転をご利用の際スケジュール期間が重複した場合、スケジュール運転が正しく動作しない恐れがあります。スケジュール期間が重複しないよう設定を行ってください。

以上